

熱く盛り上がった 冬のイベント

摩周ウインターフェスタ2019



子どもに大人気の雪の滑り台



出店が多数出店

会場には今年も、巨大な雪と氷の滑り台が設置されたほか、チューブスライダーやバギーが子どもたちの人気を集めました。会場では、ジャガイモ拾いやお菓子まき、お楽しみ抽選会など趣向を凝らしたイベントが行われたほか、おいしい食べ物のお店が多数出店。本町の地域おこし協力隊も、てしかが産のクリームシチューのお店を出店し、元協力隊員の高木さんによるホットワインも同ブースで販売されました。また、氷上綱引き大会では、2日間にわたり熱い戦いが繰り広げられ、9日夜には摩周冬空花火の打ち上げが行われ、観客からは歓声が上がっていました。



雪像づくり | 摩周丘幼稚園

摩周ウインターフェスタ2019（同実行委員会主催）が2月9・10日の両日、ふれあいスペースコラールで開催されました。イベントの少ない冬季の弟子屈町を活性化させようと毎年開催されているもので、今年で13回目。楽しみにしていた子どもたちや家族連れなどが会場を訪れました。

自然が創り出す美を体感

ダイヤモンドダスト in KAWAYU 2019



バランスが難しい雪柱づくり(川湯小)



完成したオブジェを並べる(川湯中)

ダイヤモンドダスト in KAWAYU 2019（同実行委員会主催）が1月25日～2月28日、川湯園地周辺で行われました。ダイヤモンドダストを間近で体感できる、毎年恒例のイベントです。期間中の19時～21時に、川湯神社内のダイヤモンドダストのライトアップが行われ、訪れる人を楽しませました。

川湯園地に設置された「灯の森（ともしびのもり）」は、スノーランタンやアイスキャンドルの暖かな光で照らされた幻想的な空間。写真を撮る観光客の姿が多くみられました。また、川湯小・中学校の児童生徒らが作成した雪柱やオブジェもライトアップされ、暖かな「灯」と静かな「森」の交わりが美しい空間を作り上げました。

期間中、川湯地区では「森のスノーパーク」[てしかが極寒ARtフェスティバル2019]など、弟子屈の冬ならではのイベントが各地で開催され、弟子屈の冬を盛り上げました。



雪柱に灯りがともる(灯の森)

町の話



町の話

郷土の魅力を再発見

弟子屈高校 弟子屈探究発表会を開催



6月に川湯地区で実施した資質調査



審査員の前でプロモーションビデオを発表

審査員は「弟子屈ならではの視点大切にしたい」と好評でした。

自然を紹介するプロモーションビデオを作成し、発表しました。

弟子屈高校（宮崎岡校長）では12日、「弟子屈探究」の発表会が行われました。

この「弟子屈探究」は、弟子屈ならではの自然や郷土の魅力を学習する学校設定科目として今年度から開講されました。

1年次には、摩周湖や硫黄山、阿寒摩周国立公園を中心に、地形や生態系の特徴や成り立ちを学びました。昨年6月には、川湯地区での地質調査などを行い、10月には、屈斜路でのカヌー体験や釣り体験を行いました。本年1月には、町内の温泉の泉質を調査するなど、各地で巡検を実施しました。

発表会では、巡検時に講師を務めた環境省と川湯エコミュージアムセンターの職員、自然ガイド、小林俊夫教育長が審査を務めました。生徒は5つのグループに分かれ、グループごとに巡検での成果を参考に、弟子屈の自然を紹介するプロモーションビデオを作成し、発表しました。

町の話



町の話

冬ならではの楽しみを

森のスノーパーク
てしかが極寒ARtフェスティバル2019



ツリーイング体験にもたくさんの方が参加



サムライデンキの2人によるパフォーマンス



ティピーテント前でたき火を囲んで

てしかがえこまち推進協議会（会長・徳永町長）は、寒いこの時期ならではのイベントを開催しました。

同協議会エコツアーズム推進部会（藤原仁部長）は、2月16・17日の2日間、「森のスノーパーク」を川湯エコミュージアムセンター周辺で開催。クロスカン トリースキー体験や園地内の木に登るツリーイング、ティピーテントでのたき火、イグルー作りなど、冬ならではの体験メニューを、多くの方が楽しみました。川湯エコミュージアムセンターの2階カフェスペースでは、同協議会の食文化部会（木名瀬佐奈枝部長）によるカフェ&バルを営業し、地元の皆さんや観光客の皆さんなどでにぎわいました。

また、2月9日からは、同協議会のアート&アド部会（今井善昭部会長）で、「てしかが極寒ARtフェスティバル2019」を開催。野外美術館での作品展示、アートイン極寒芸術伝染装置アートホールにて2月27日までの間、アーティストによるパフォーマンスが行われました。作品展示は、3月9日まで行われますので、ぜひご覧ください。